東北学院同窓会宮城野支部岩切 TG 会

令和７年度総会・懇親会

「まるで“地域との関わり”が、テーマであったかのようだったなぁ・・」。この度の令和７年度総会を無事に終えた瞬間、特にテーマを掲げていたわけでは無かったが、ふとそう思った。渡辺敏之会長の開会挨拶にも、来賓としてご出席いただいた母校教授の菊地雄介先生のご祝辞にも、そしてテーブルスピーチに立って下さった校友課大沼健一郎課長のお話も「東北学院との地域の関わり」について触れられていた。

奇しくも総会に先立って開催した記念講演会も、TG 会メンバーに関わらず地域の皆様どなたでも聴講いただけるようなスタイルとし、さらに、講演の内容は「私の人生観・岩切阿部家に生まれて」というもので、まさしく地域そのものをテーマにしたものであった。昨年の秋に旭日単光章を受章された講師阿部建夫氏の、岩切の旧家“阿部家”の一人としての、ご自身の生い立ちや、地域との関わりについてのお話しを、岩切地区の皆様と共に聞くことができたことは、私たち TG 会メンバーにとってもかけがえのない時間となった。

今回の総会を開くにあたり、同窓生 100 名に開催案内をお送りした。結果は出席者 15 名というもので、どう見ても多くとは言えないこの数字を前に、役員全員頭を抱えてしまうという状況となってしまった。しかしこれは今に始まった事ではなく、残念ながら長期慢性症状となってしまっている。この現状をどう変えていったら良いのか、今後における大きな課題であり、悩ましいところではある。しかし、今回の令和７年度総会は、そのヒントを示してくれた。

そのヒントがまさしく「地域との関わり」であり、それがあらかじめ掲げられた総会テーマであるかのように取り上げられ、議論されたが、これこそが、TG会の強化につながる妙薬にもなりうるのではないのだろうか。筆者の私見ではあるが「岩切ふれあいプロジェクト」とでも名付けて、地域でのTG会主催事業を展開していったら何かが変わるのではないだろうかと、講演会から総会・懇親会とプログラムが進行すると共に、私の中で徐々に期待が膨らんできた。校歌斉唱に続いて、永野昌一副会長の「工夫を重ねて、もっと大勢が集うTG会にしましょう。」という閉会挨拶を聞いた時、その期待は確信に変わった。具体的には、誰でも参加できるパークゴルフ大会開催案が、すでに持ち上がっていて、今まさにその準備に入ろうとしている。

肝心の総会は、横田恭治議長のもと、鈴木健治幹事長からの事業報告、阿部建夫監事による会計監査報告と滞りなく進行し、すべての議案は満場一致で承認された。
総会の後のお楽しみ懇親会は兵藤勲顧問の乾杯で始まり、出席者全員のテーブルスピーチで少ない人数ながら大いに盛り上がった。

全てのプログラムが終了し、恒例の出席者全員による後片付けをしながら、ふと吉川時夫副会長のテーブルスピーチを思い出した。それは「この間、私に初めてのひ孫ができました！いままだ赤子のこの子が成長し、小学校に入ったらランドセルを買ってやりたいと思います。そのランドセルを背負った姿を見るまで生きます！」との決意表明だった。会場は、割れんばかりの拍手に包まれ、出席者からの「おめでとうございます！」の声で埋め尽くされた。嗚呼、やっぱり岩切TG会っていいなぁ！

（事務局・嘉藤和男）